

SSKU

2021年度

冬号

お元気ですか？

イリアンソスです。



Page2 理事長の散歩道

Page3 特集「子どもの未来・このみの未来」

Page6 活動報告

Page7 職員リレー「仕事で大切にしていること」

連載

理事長の散歩道

②⑥

「それぞれの暮らしのあり方を考える」

社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

母親がいない！昨日いつものように夕方六時半に職場から帰宅すると母親の姿がありません。スリッパが玄関においてあり靴が見当たりません。母親の部屋を見るとバックがあり財布も入っているのに散歩か？と思いました。しかし、外は暗いし今にも雨が降りそうな空模様です。

十一月から田舎で暮らしていた母親を引き取り、埼玉の自宅で一緒に暮らしています。実は、父親が不整脈で入院し一時心肺停止までなりました。なんとか回復しましたが、現在は長期入院が必要となっている状況です。そのため母親は一人暮らしとなりました。しかし、母親は一人生活に慣れてなく不安を訴えてきたため、埼玉で暮らすこととしました。知り合いもいない慣れない埼玉です。そして、わたしたち夫婦は月曜日から金曜日まで仕事でいないため日中は一人です。母親はもう九一歳、これまで父親との暮らしから一八〇度変わった生活を送らなければなりません。しかも、昼間の間一人になってしまい申し訳ないと思

っています。だからデイサービスを利用してもらおうと提案しました。しかし、母親は、難聴で人と話をするのが好きではないことと慣れない場所であることから、なかなかデイサービスに行くことが少ない日曜日にデイサービスを体験することを納得してもらいました。体験をした後、「どうでしたか？」と聞くとあまりいい返事はありません。私たち夫婦も母親を迎え一緒に暮らす中で、生活リズムの変化に慣れずストレスが溜まって来ていました。考えてみれば、わたしは十八歳から東京で暮らしており、母親との生活は四六年ぶりです。日曜日に母親がデイサービスに行ってくれて、その時間が七時間余りだったので、ホットしたのは事実です。だから、継続して母親にはデイサービスに行ってもらいたい気持ちです。

そんな中で、母親はデイサービスに行くだけでなく自分の楽しみを見つけようと散歩に出かけたのだと思います。わたしは、すぐに警察に連絡し捜索願いを出

しました。するとわたしの携帯に知らない番号から連絡が入り、母親を保護していると教えていただきました。心からホットし無事に会うことができました。実は行方不明になったのは今回で二回目です。一回目は日曜日の朝で、わたしたちがいたのですが、一人で散歩に出かけて同じように道がわからなくなっていました。その時、散歩に持っていったような住所や電話番号を書いた名札フォルダーを作り、家の鍵も付けておきました。その名札を見て連絡をくれたのです。本当に良かったです。

これは家族支援と思っています。田舎の広い家で暮らしていた母親が都会の狭い家で暮らすことの難しさ。四十年以上一緒に暮らしたことがない親を迎えて暮らすことの難しさ。わたしが今の仕事で障害のある方たちの暮らしを社会全体で支えていく仕組みづくりを目指しています。障害分野だけのことではないんだと、今つくづく感じながら一日を生活させてもらっています。

特集

このみの活動紹介 ～放課後等デイサービスこのみ～



このみは誕生して三九年経過しました。「障害児(者)と共に生きる地域づくりをめざす」をキャッチフレーズにして、障害のある子どもたちの日常生活を支えていく活動をおこなってきました。その内容は多岐に渡りましたが、その中で『遊び』を中心とした活動が現在の『放課後等デイサービス』の活動につながっています。

当時の制度は現在の日割りではなく、一年間の補助金事業で活動内容に制限はありませんでした。そのため、障害のある子どもやその兄弟、そして、近所の子どもたちも参加できる企画をしました。保育園の敷地を借りて「プレランド」と称して、巨大シーソー・手作りロープウェイ、園庭を使った迷路、夏はウォータースライダーなどで楽しみました。また、いろんな場所も利用して遊びました。例えば落合川添いの遊歩道、伊豆ヶ岳登山、スケートなどなど。そして、子どもたちのボランティア団体である「うんどうぐつ」との交流、子ども祭りの参加、学芸大学付属特別支援学校で行った夕涼み会などさまざまな活動を行ってきました。

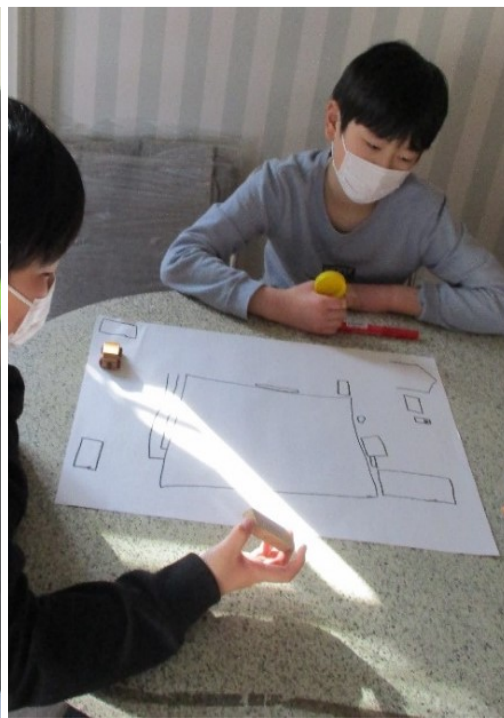
このような歴史の中で大切にしていることは、「遊び」を充実させていくということです。遊びを通して子どもたちは様々な顔を見せています。例えば、今まで一緒に遊ぶことが



なかった子どもたちが、好きな遊びや好きなゲームが共通していると自然と集団となって、自分たちでルールを決めて遊ぶ姿があります。そこには子どもたちの世界があり日々、遊びの幅がどんどん広がっているということが感じられます。職員は危険防止などをおこないながら一緒に遊ぶなどして子どもたちの世界に少しでも近づくようにしています。鬼ごっこ、野球、おままごと、プラレール、おやつ作り、創作活動など毎日賑やかに活動しています。そんな子どもたちに将来の夢を聞くとたくさんの答えが返ってきます。「ピザ屋さんになりたい」「消防士になりたい」などとても楽しそうな夢がたくさん出てきます。年齢を重ねていくにつれて、子どもたちの世界や人間関係も広がっていききます。活動の中でもそんな、精神的な成長を感じる場面があります。小学生の時には元気に走り回っていた子が中高生になるにつれて自分より年下の子の面倒を見ることが多くなってくるのです。家庭と



も学校とも違った自分自身の役割や責任感を見つけ出しているのではないかと思います、とても嬉しくなります。集団の中で成長していく支援と共に、個別に色々なことに挑戦していく場を作ることも大切にしています。例えば、一人でこのみから自宅までバスや電車、徒歩を使って帰られるように支援をしています。最初は一緒に帰りながら覚えていき、徐々に見守りに移行しながら最



最終的には一人で帰られるよう支援をしていきます。一人での行動は緊張することもあるかと思いますが、自信や達成感にもつながっていくと思います。通所の支援の他には調理活動があります。今は感染防止対策で、おこなえていませんが食事づくりもこのみの活動の軸となっています。買い物から調理までみんなでおこないます。切ったり、焼いたり、炒めたり、最後には盛り付けをおこなって見た目も美味しくいただきます。悪戦苦闘をしながらも一つ一つの工程を楽しんでいます。調理を通して、新しいことに挑戦する気持ちや自ら考えて試行錯誤していく機会を多く作っていつています。このような経験が将来的に少しでも本人の役に立てれば良いなという思いです。調理を通して苦手だった食べ物が克服できたという子どももいます。家庭で

親御さんと一緒に作ったという話も聞くことがあります。こうした一つ一つの活動が子どもを中心に多くの人が集まりつながっていくことができます。遊びを中心に仲間を作り、色々な挑戦を通して自信をつけて次への挑戦への一歩を踏み出していく。そのきっかけづくりが出来たらよいなと感じます。何よりも、子どもたちがのびのびと遊んで過ごしている姿を見ることができのびのびのみの特徴ではないでしょうか。そういう姿をこれからも大切にしながら、五年後も十年後も、ずっと共に成長し続けていきたいと思っています。

(文責：吉坂慧佑)



作品展

活動センターかなえ

毎年「利用者が日々作成している作品を通して障害のある人の自己表現のすばらしさを市民の方々に伝える」ことを目的に開催しました。今回は絵画だけでなく手芸品を使った作品など一人ひとりの個性ある作品を展示して、市民の皆様にご覧いただくことができました。アンケートでは「素敵な作品ばかりで楽しかったです。」「どの方も意欲的に描けていました。」「などのご意見も頂き、二日間で三〇名以上（法人関係者以外）の方に来場いただきました。

なかまの家

感染症対策としてオンラインでの配信とカタログで自主製品の販売をおこないました。初の試みで、試行錯誤しながら完成に辿り着いた事は良い経験となりました。ご覧になられた方々、注文いただいた方々ありがとうございます。今後も色々な発信の形を通して利用者の皆さんの素敵な作品をお届けしていきたいと思えます。



▲活動センターかなえ作品展



▲なかまの家はオンラインで開催

なかまの家 署名の御礼

このたび、東久留米市議会令和三年第四回定例会に「中央町障害者事業所（なかまの家）に安心して通所ことを求める請願」をなかまの家家族会から提出しました。一ヶ月足らずという短い期間での取り組みでしたが、一三八七筆という多くの署名を市内外の方からいただきました。急なお願いにも関わらずご協力ありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

また審議の結果は「趣旨採択」となり、どの議員からも反対のご意見がなかったという事もあわせてご報告いたします。この結果を踏まえ、引き続き東久留米市と懇談を重ねていきたいと思えます。

今後も、障害のある方達が安心して生活していけるようみなさまの温かいご支援をお願いします。



▲なかまの家の外観と署名用紙



中央町障害者事業所（なかまの家）に安心して通所できることを求める請願

請願者
 請願理由
 請願内容
 署名欄
 署名
 署名欄

氏名	住所	印	捺

※署名欄は複数回記入して構いません。
 ※署名欄には氏名を正確に記入してください。



のぞみの家 (生活介護)

中西香奈(14年目)

イリアンソスに就職し十何年・・・このみで子どもたちからたくさんの事を学び福祉の世界の楽しさを知りました。三人目を出産しのぞみの家に異動した際は児童から成人の方への支援の戸惑い、不安もありましたが皆さんの温かい雰囲気にもまれて続けてこれました。支援するにあたって大切に行っている事は『笑顔』です。以前の上司に「この職は演技するんだよ」と教えられました。



活動センターかなえ (生活介護)

花形優(14年目)

十数年勤務したグループホームから日中の作業所に異動になり早くも一年半が経ちました。はじめは日勤で現場に入ることに戸惑いもありました。まだまだ分からないことも多い中ですが、利用者さんたちが楽しそうに嬉しそうに活動している姿、悩んでいる様子などを見ながら日々の中でどうすればみんなが安心して活動できる場を作れるようになるかと、考えています。

職員のひとつとリレー VOL 9

前回、職員からのリレーです。
『仕事で大切にしていること』今回は、通所の職員です。

プライベートで嫌な事があった時等、仕事に影響してしまう事もあると思います。しかし利用者さんを支援する上では関係ない事です。気持ちを切り替え支援に当たる。そう教わり支援をしています。始めは作った笑顔でもその笑顔が利用者さんに伝わり、それがいつしか心からの笑顔に変わっていく支援へ繋がっていると思っています。

私のモットーは「無理をしない」「楽しく楽に」であり、今も楽しく現場の支援をさせて頂いております。これからも利用者さんが、一緒に働くスタッフが、自分が、楽しく活動できるよう支援を考えていきたいと思っています。

ご寄付をいただきました(1月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 楠田和世様 崎原照代様 寺島美紀様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町3-8-23
042-473-9667

～編集委員のつぶやき～

ネット情報、感染症、超超高齢化…、現代の子ども達を取り巻く環境はとて厳しくなっている。子どもの未来は社会の未来であり、福祉の未来でもある。まずは身近にいる子ども達を笑顔に出来る一年にしたい。

なかまの家 疋田史江

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-1

ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員》

磯部光孝・鈴木友佳里・多田由美・花形優・疋田史江
福田恵・松森大輔・吉坂慧佑・吉田遊佑

※ホームページからもご覧いただけます。

イリアンソス



定価100円

表紙の写真

初代理事長が描いた草花の数々です。

温かみを感じます。